

まち紹介

南房総

富浦の入り江散策



文・写真
橋本 修一

令和2年12月中旬仕事の仲間と富浦の入り江散策に出かけました。年末の気ぜわしい時期であり、寒気もひとしおとなって、人出はほとんど無かった。そんな中なぜこの場所に来たかったのか。そこには、私のこだわりが二つ有り、そのことを紹介したいと思います。



まず第一に、この場所は今、隠れた人気スポットになっている。それは原岡海水浴場にある岡本棧橋である。ある通信会社のCMになっているので、見た方も多いと思うが、今では、冬にもかかわらず、観光スポットになっているのです。この場所は、木製の棧橋(一部RC造)であり、この場所に立っていると、ポツンポツンと立っている裸電球の外灯に、郷愁を呼ぶ昭和の歌謡曲の旋律が、聞こえてきます。写真は、当棧橋に女性がたたずむ日薄曇りで、薄暗い雰囲気ですが、晴れた日は、棧橋の先に、遠く富士山も望め、絶好の撮影スポットになります。又夕暮れ時の夕日や満天の星空もこの棧橋には似合います。この棧橋の歴史を少し紐解くとここは元々漁港施設で、大正10年には停船場の記載があるそうです。さらに昭和10年に整備されたと漁港台帳に記載があるとのこと、このころ今の形ができたと思われます。

次に第二は、この海水浴場そのものです。この場所は、遠浅で透明度もかなり高く棧橋の先では、魚の泳ぐ群れが見えました。さてこの場所の思い出は、今から55～57年前の1966～1968年頃の話です。私が小学校4～6年頃毎年夏休みに、ここ富浦湾の近くの民宿に家族で泊まったという記憶がありました。当時は、芋の子を



原岡海水浴場と周辺

洗うような混雑ぶりで、さらに高度成長期に重なり、重油がブカリブカリして、体にまとわりつくし、その上、電気くらの攻撃で、太ももに鞭で打ったようなミミズ腫れが、出来たりというトリプル攻撃を受けたと言う鮮烈な記憶が有ります。また、我が家(香取市)から遠く離れたこの地に行くには、機関車(当時まだ電車は無かった)で6時間くらい掛けて行きました。トンネルをくぐる時、煙が汽車の中に入り込み、すすが目に入り、母親につばを付けたハンカチで、取ってもらった思い出が、鮮やかによみがえりました。今は、そんな喧噪を少しも感じさせずに、空気も冷たく、波も穏やかな、透き通った波間には魚が群れなす棧橋の先の富浦の海でした。

最後にこの後道の駅とみうらに寄り、びわジュースやびわジェラードを味わいました。

今度は、びわそのものの季節にまた再訪したいと思います。

